

千葉市感染症発生動向調査情報

2025年 第22週 (5/26-6/1)

1 定点把握対象感染症(五類感染症の一部)

定点	報告定点医療機関数			
	第22週	第21週	第20週	第19週
小児科	16	16	16	16
ARI(急性呼吸器感染症)	26	26	26	26
眼科	5	5	5	5
基幹	1	1	1	1

上段: 報告患者数、下段: 定点当たりの報告数

定点当たりの報告数: 報告患者数/報告定点医療機関数

定点	感染症	発生動向	5/26-6/1 第22週	5/19-5/25 第21週	5/12-5/18 第20週	5/5-5/11 第19週
小児科	RSウイルス感染症		1 0.06	2 0.13	0 0.00	1 0.06
	咽頭結膜熱		1 0.06	4 0.25	5 0.31	3 0.19
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↓	28 1.75	44 2.75	55 3.44	41 2.56
	感染性胃腸炎	↑	100 6.25	88 5.50	98 6.13	61 3.81
	水痘		3 0.19	6 0.38	4 0.25	3 0.19
	手足口病		2 0.13	3 0.19	2 0.13	0 0.00
	伝染性紅斑	★★★↑	37 2.31	30 1.88	28 1.75	33 2.06
	突発性発しん		6 0.38	8 0.50	14 0.88	5 0.31
	ヘルパンギーナ		0 0.00	1 0.06	0 0.00	0 0.00
	流行性耳下腺炎		0 0.00	2 0.13	3 0.19	0 0.00
ARI	インフルエンザ (高病原性鳥インフルエンザを除く)		8 0.31	5 0.19	5 0.19	11 0.42
	新型コロナウイルス感染症		9 0.35	15 0.58	14 0.54	3 0.12
	急性呼吸器感染症		1,548 59.54	1,537 59.12	1,541 59.27	1,131 43.50
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		4 0.80	2 0.40	6 1.20	5 1.00
基幹	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	マイコプラズマ肺炎	↑	1 1.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	インフルエンザ入院		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	新型コロナウイルス感染症入院		1 1.00	1 1.00	1 1.00	1 1.00

※「発生動向」欄のマークについて

<流行状況>

★★: 「警報レベル」流行発生警報開始基準値以上(終息基準値を下回るまで継続表示)

★: 「注意報レベル」流行発生注意報基準値以上

※警報レベル・注意報レベルについては、市感染症情報センターWebSiteの「警報・注意報の解説」のページをご覧ください。

<増減>: マークの対象は当該週又は前週の定点当たりの報告数が1.00以上

↑・↓: 「増加・減少」定点当たりの報告数が前週より5%を超えた増加または減少

2 全数報告対象感染症 24 件

感染症			性別	年齢層	感染症	性別	年齢層
結核（患者）			女	90歳代	百日咳：18件	女	10歳未満 4
侵襲性インフルエンザ菌感染症			男	10歳未満		男	10歳未満 2
梅毒			女	20歳代		女	10歳代 5
			女	20歳代		男	10歳代 5
			女	20歳代		女	40歳代 2
			女	20歳代	-	-	-

結核1件(60)、侵襲性インフルエンザ菌感染症1件(4)、梅毒4件(34)、百日咳18件(176)の発生届があった。

※（）内は2025年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

3 定点当たり報告数 第22週のコメント

＜A群溶血性レンサ球菌咽頭炎＞

前週より減少し1.75となった。年齢階級別の報告数は6歳が最多。

＜感染性胃腸炎＞

前週より増加し6.25となった。年齢階級別の報告数は4歳が最多。

＜伝染性紅斑＞

前週より増加し2.31となり、流行発生警報開始基準値(2.0)を上回った。過去5年の同時期と比べ最多のまま。年齢階級別の報告数は4歳、6歳及び9歳が多かった。

＜急性呼吸器感染症＞(第15週から調査開始)

前週からほぼ変化なしで59.54となった。年齢群別の報告数は1-4歳が最多。

＜マイコプラズマ肺炎＞

前週より増加し、1.00となった。

＜新型コロナウイルス感染症入院＞

前週から変化なしで1.00であった。

■ 各感染症のグラフ、インフルエンザ発生状況は、市感染症情報センターWebSiteでご覧いただけます。

・感染症発生グラフ

<https://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/iryoeisei/khoken/kkagaku/idsc/documents/graph2025.pdf>

・インフルエンザ発生状況

<https://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/iryoeisei/khoken/kkagaku/idsc/documents/influ2025.pdf>

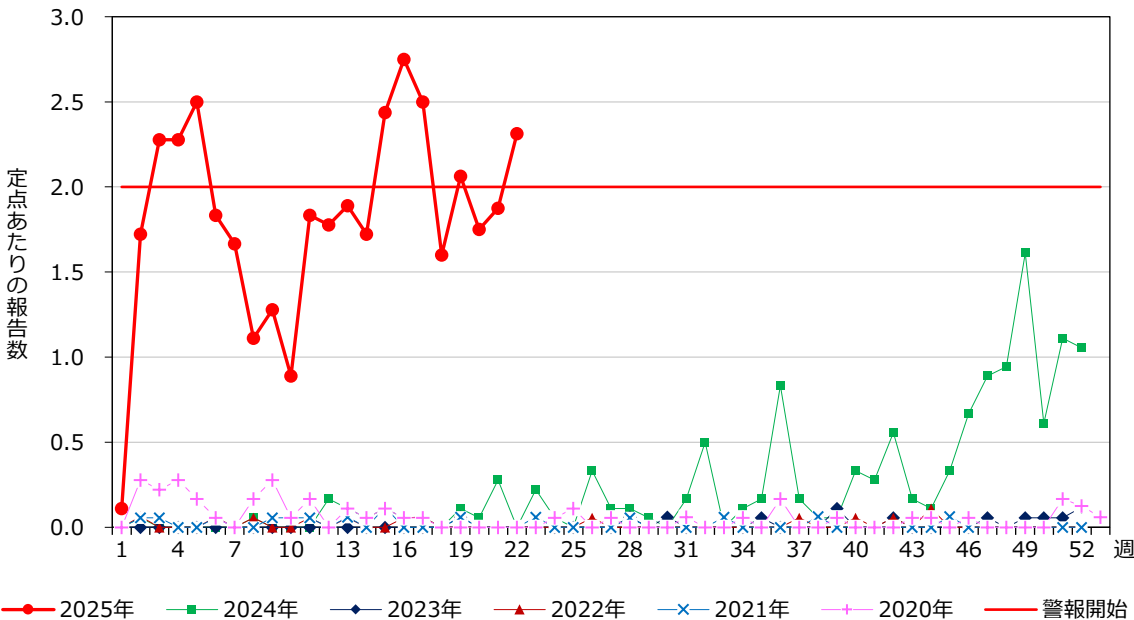
■ トピック ■

＜伝染性紅斑＞

前週より増加し2.31となり、流行発生警報開始基準値(2.0)を上回りました(図1)。

感染しても予後は良好ですが、妊婦が感染すると、ウイルスが胎児に垂直感染し、流産や死産、胎児水腫を起こすことがあります。感染経路は通常、飛沫感染又は接触感染であり、手指衛生や咳エチケット等の一般的な衛生対策、体調不良時は自宅で安静にすること等、うつらない・うつさない予防対策が重要です。

図1 年別・定点あたりの報告数（2020年第1週-2025年第22週）



<後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)>

厚生労働省は、毎年6月1日から6月7日までの1週間を「HIV検査普及週間」と定めています。

HIV検査普及週間は、HIVの検査や相談体制に関する情報提供を含めた普及啓発を行うことによって、HIV検査の普及・浸透を図る機会とするものです。

本年も、都道府県、公益財団法人エイズ予防財団、エイズ関連NGOなど関係団体の協力を得て、普及啓発イベントを実施しています。

全国レベルの2025年第21週現在の累積届出数は、313件で、過去5年の同時期と比べると最少となっています。都道府県別では東京都(94件)が最も多く、次いで大阪府(35件)、神奈川県(22件)、千葉県(19件)の順となっています。

千葉市は2025年第22週現在、累積届出数は2件となっています。

2020年第1週から2025年第22週までに12件の届出がありました。2021年を除き2~3件で推移しています(図2)。全員男性で、年代別では40-49歳(6件、50.0%)が最多となっています(図3)。感染原因は性的接触が10件(83.3%)、不明が2件(16.7%)で、性的接触10件中、異性パートナーが4件、同性パートナーが6件でした。

図2 年別届出数

(2020年第1週-2025年第22週 n=12)

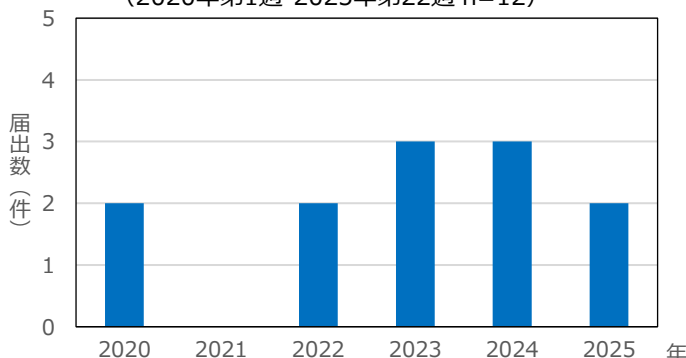
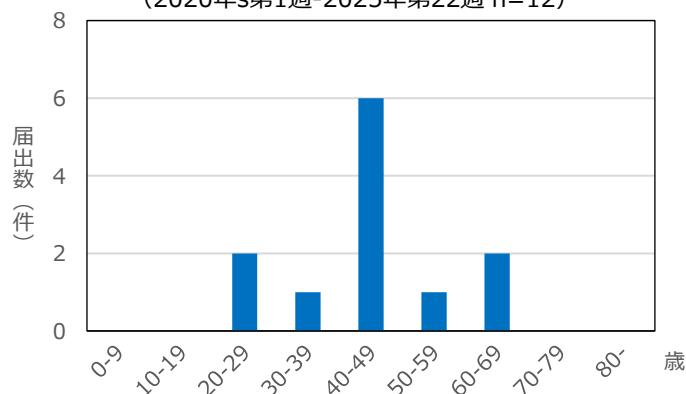


図3 年代別届出数

(2020年第1週-2025年第22週 n=12)



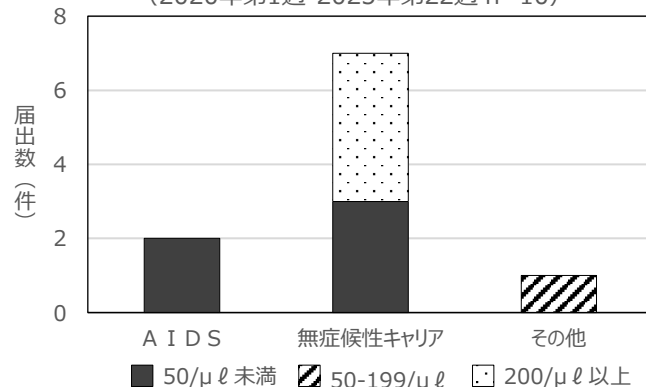
12件の届出のうちCD4値*の記載があったものは、病型別でAIDSが2件、無症候性キャリア(発症なし)が7件、その他(AIDS以外の発症)が1件の合計10件でした。CD4値は、AIDSでは2件とも50/μl未満であり、無症候性キャリアでは50/μl未満が3件、200/μl以上が4件であり、その他では50-199/μlでした(図4)。

*CD4値とは、血液中のCD4陽性Tリンパ球の数を示す数値です。

CD4リンパ球数が200/μl未満になるとカリニ肺炎などの日和見感染症を発症しやすくなり、さらにCD4リンパ球数が50/μl未満になるとサイトメガロウイルス感染症、非定型抗酸菌症、中枢神経系の悪性リンパ腫など、正常な免疫状態ではほとんど見られない日和見感染症や悪性腫瘍を発症します。

図4 病型別・CD4値の分布

(2020年第1週-2025年第22週 n=10)



後天性免疫不全症候群は根治はできないものの、適切な治療で血中のウイルス量を減少させることにより、免疫機能を維持・回復し、良好な予後を見込むことが可能となり、性交渉による他者への感染を防止することも明らかとなっています。感染予防とともに早期の検査と治療開始、治療継続が重要です。

千葉市では、令和5年度からは市内医療機関に委託してHIV等性感染症検査を実施しています。また、HIVや性感染症についての相談(予約制)を電話や面接で実施しています。詳細は、以下のURLをご参照ください。

「HIV(エイズ)の検査と相談(予約制)」

<https://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/iryoeisei/kenkokikikanri/eizu.html>

※ 感染症発生動向調査とは、感染症の発生情報の正確な把握と分析、その結果の国民や医療機関への迅速な提供・公開により、感染症に対する有効かつ確かな予防・診断・治療に係る対策を図り、多様な感染症の発生及びまん延を防止することを目的としています。

<参考>千葉県感染症情報センター

<https://www.pref.chiba.lg.jp/eiken/c-idsc/index.html>